

授業科目	科目概要・形式	配当年次
緩和ケア論	2 単位 30 時間	1 年 後期
科目責任者	鳴井ひろみ	
担当者	鳴井ひろみ、佐藤温、山崎智子、秋庭聖子、泉美紀子	
<p><b>1. 科目のねらい・目標</b></p> <p>がんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を包括的に理解し、エビデンスに基づいて適切なキュアとケアを統合して提供する能力を身につける。また、End of Life Care、家族のグリーフワークについて学び、終末期がん患者および家族の QOL 維持向上のための看護援助方法を探究する。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 緩和ケアの概念、歴史および動向を理解する。</li> <li>2) がんがもたらす苦痛症状および苦悩を包括的に理解し、事例を通して、アセスメントに基づく適切なキュアとケアを統合した緩和のための看護援助を検討することができる。</li> <li>3) 患者・家族が直面する倫理的課題と葛藤の解決方法を探求し、倫理調整について理解できる。</li> <li>4) 最期のときをその人らしく生きるための患者およびその家族への支援・遺族ケアの必要性について説明できる。</li> <li>5) 緩和ケアにおける在宅療養のための地域連携について理解を深めることができる。</li> </ol>		
<p><b>2. 授業計画・内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 回 : がん看護における緩和ケアの現状と課題 (鳴井) <ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケアの概念と歴史 ・全人的苦痛の捉え方</li> </ul> </li> <li>2～3 回: 痛みのあるがん患者のアセスメントと看護援助(事例) (佐藤・鳴井) <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん性疼痛の種類、発生機序</li> <li>・事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報等からアセスメントし、必要な緩和治療と看護援助についての臨床判断について討議する。</li> </ul> </li> <li>4～5 回: 倦怠感・呼吸困難のあるがん患者のアセスメントと看護援助(事例) (佐藤・鳴井) <ul style="list-style-type: none"> <li>・倦怠感・呼吸困難の発生機序</li> <li>・事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報等からアセスメントし、必要な緩和治療と看護援助についての臨床判断について討議する。</li> </ul> </li> <li>6～7 回: 腹水・腹部膨満感・リンパ浮腫のあるがん患者のアセスメントと看護援助(事例) (佐藤・鳴井) <ul style="list-style-type: none"> <li>・腹水・腹部膨満感・リンパ浮腫の発生機序</li> <li>・事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報等からアセスメントし、必要な緩和治療と看護援助についての臨床判断について討議する。</li> </ul> </li> <li>8～9 回: 不安・抑うつ・せん妄のあるがん患者のアセスメントと看護援助(事例) (佐藤・鳴井) <ul style="list-style-type: none"> <li>・不安・抑うつ・せん妄の発生機序</li> <li>・事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報等からアセスメントし、必要な緩和治療と看護援助についての臨床判断について討議する。</li> </ul> </li> <li>10～11 回: スピリチュアルペインのある患者のアセスメントと看護援助 (鳴井) <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピリチュアルペインの特徴、スピリチュアルケアの概念</li> <li>・スピリチュアルケアニーズのアセスメント、介入方法</li> </ul> </li> <li>12 回 : 緩和ケアをめぐる倫理的問題 (秋庭・鳴井) <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師が遭遇する倫理的葛藤と対応、終末期のセデーション</li> </ul> </li> <li>13～14 回: 家族グリーフワーク (山崎) <ul style="list-style-type: none"> <li>・死にゆく患者の家族の理解と援助</li> <li>・死別後の家族の理解と援助</li> </ul> </li> <li>15 回 : 緩和ケアにおける在宅ケア(地域連携:在宅ケアの実際、社会資源の活用) (泉)</li> </ol>		
<p><b>3. 教科書、参考書</b></p> <p>講義の中で適宜紹介する。</p>		
<p><b>4. 成績評価方法</b></p> <p>講義・ゼミへの取り組み状況 30%、プレゼンテーション・質疑応答の内容 40%、レポート 30%で総合的に評価する。</p>		
<p><b>5. 受講要件</b></p> <p>実践看護学特論Ⅰ・Ⅱ(がん看護)を履修済みの者、がん看護専門看護師コースの学生は必修</p>		
<p><b>6. 社会人学生に対する配慮</b></p> <p>相談があれば個別に対応する。</p>		
<p><b>7. その他</b></p> <p>事前学習として、がんがもたらす苦痛症状のメカニズムとアセスメント方法、および緩和方法について文献検討を行いプレゼンテーション資料を作成して臨むこと。</p>		